

人文論叢

三重大学人文学部文化学科研究紀要

第 22 号

目 次

論説

- 清乾隆朝にみる出版の權威性 谷井 俊仁 (1 ~ 16)
- アフリカ文学と Oral Literature (3)
—— ヴァン・デル・ポストとブッシュマン 赤岩 隆 (17 ~ 31)
- ドイツのジャポニズム —— エルンスト・シュアと日本美術 松尾 早苗 (33 ~ 47)
- 『テアイテトス』(186c4)における「教育」の一解釈 今泉 智之 (49 ~ 64)
- 日英語の比較をめぐる(その3:日本語助詞論の3) 宇納 進一 (65 ~ 79)
- グリム童話と『日本の昔ばなし』の比較 —— 難題解決結婚について —— 太田 伸広 (81 ~ 110)
- 過疎地域の高齢者と他出子
—— 三重県紀伊長島町の調査事例を通して —— 石阪督規・緑川奈那 (111 ~ 128)
- 談話理解モデルからみた日本語名詞句の解釈について 吉田 悦子 (129 ~ 140)
- ブレヒトの『小市民の結婚式』について 友永輝比古 (141 ~ 145)
- コンビナート(産業団地)周辺の大気汚染が児童の健康被害に及ぼす
日韓の比較研究 —— 「四日市学」の適用 —— 朴 惠淑 (147 ~ 167)
- 〈私〉の消去の後に1 —— 性起としての世界と人間 村上 直樹 (169 ~ 190)
- バイオテクノロジーとモンスター: 遺伝子組み換え動物の社会的表象 永田 素彦 (191 ~ 200)
- 下関市立美術館蔵、香月家地球儀について 宇都宮陽二郎 (201 ~ 212)
- フランス—アメリカ関係史 —— この「危険な関係」 宇京 頼三 (一 ~ 五)
- 梅川文男研究 (5) —— プロレタリア詩人・堀坂山行の戦後 —— 尾西 康充 (七 ~ 三)
- 拝田・牛谷の民—近世宇治・山田の非人集団— 塚本 明 (三 ~ 五)
- 中尾本『おくの細道』の用字特性(下の一) 濱 森太郎 (五 ~ 六)
- 「空前絶後!」四国八十八ヶ所霊場出開帳
—— スペクタクルとしての巡礼と巡礼空間の生産 —— 森 正人 (六 ~ 八)

研究ノート

- 中国環境問題への視点 福田 和展 (213 ~ 218)
- 東紀州活性化大学の実験と実践
—— 地域活性化の方法論についての一考察 —— 安食 和宏 (219 ~ 232)

書評

- 近年のドイツにおけるコミック論 (1) 大河内朋子 (233 ~ 239)

三重大学人文学部

2005